

事務事業評価表 平成23年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 都市型農業の推進
 基本事業 農畜産物の付加価値化

事業名 **ブランド化支援事業**

[0054]

部名	経済部	事業開始年度	平成16年度	実施計画事業認定	対象
課名	農業振興課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内農業者・市内肉用牛飼養農業者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>ハルユタカの種子を安全供給し、生産量の安定化を図る。 えぞ但馬牛の優良種雄牛精液を確保し、市場評価を向上する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>春まき小麦「ハルユタカ」安定供給のため、種子減収補てんや試験研究を行う基金に負担金を支出する。 黒毛和種「えぞ但馬牛」の市場評価向上を目的とし、人工授精に用いる優良種雄牛精液購入に対して補助する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	農家戸数	戸	507	502	483	502
対象指標2	市内肉用牛飼養農家戸数	戸	23	22	23	22
活動指標1	負担金・補助金額	千円	1,530	694	689	750
活動指標2						
成果指標1	ハルユタカの生産量(製品収量)	t	2,169	160	0	2,100
成果指標2	肥育牛(肉用)の枝肉単価	円	2,056	1,814	1,706	1,800
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	1,530	694	689	750
正職員人件費(B)		千円	5,015	4,979	3,224	4,073
総事業費(A) + (B)		千円	6,545	5,673	3,913	4,823

費用内訳	
22年度	負担金・補助及び交付金 689千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	ハルユタカは全国的に知名度があり 特に江別産のイメージが強く 将来ブランド化できる品種として有望である。しかし、ハルユタカは収量が不安定なことから、全道的に収量が減少し、これに伴って種子生産量も減少した。このため、市内の作付面積確保には種子を自前で用意する必要がある。本事業では種子不作時の補てんを目的とした基金を設立し、種子生産拡大を誘導することによってハルユタカ生産量の拡大を目指す。	事業を取り巻く環境変化	えぞ但馬については、飼料価格の高騰、枝肉取引価格及び和子牛取引価格の下落等、肉牛生産農家は厳しい状況に直面している。
--------	--	-------------	--

22年度の実績による事業課の評価 (7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は?

農業を含めた市内産業の長期的な振興を目的としており、市としての取組が必要です。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は?

ハルユタカは知名度が高く、今後、安定的に生産・供給することによって地域ブランドとして確立することは、上位基本事業の成果に直結します。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか?

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は?

えぞ但馬牛については、品質の向上により、素牛市場での評価が高くなってきています。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は?

事業を継続することでハルユタカやえぞ但馬牛の付加価値が上がり、生産を誘導することができれば、更なる生産量増加と、生み出される商品の増加が期待できます。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

- ある
- ない

理由・
根拠は?

良品質小麦安定確保対策基金は、平成20年度をもって積立期間を終了しました。えぞ但馬牛は、現在の高い市場評価を維持するためには、優良種雄牛精液確保の継続が必要です。